

主 題：人類にとって最も大切な命令

聖書箇所：マルコの福音書 12章28-34節

イスラエルのエルサレムに近いオリーブ山の中腹に、イエスがエルサレムを望みつつ嘆かれたところがあります。今、そこには教会があります。イエスのご自分が約束の救世主であることを、何度も何度も繰り返し言ってこられました。多くの人々は信じませんでした。イエスのわざをみても、預言の成就をみても、みことばを聞いても、心を開かなかったのです。イエスはイエスを陥れようと計ったユダヤ人指導者たちの質問に完璧に答えられました。しかし、その中にはイエスの語られる真理に聞こうとする人もいました。28節にある律法学者はその一人だったようです。

A. 律法学者の質問 28節

律法学者とは律法を解き明かす専門家です。「ひとり来て」とあるのは、多くの律法学者から代表して送られてきたのです。これまでの彼らの質問は13節にあるとおり、イエスをわなに陥れようとする意図がありました。この時の律法学者はイエスをためそうとしたのです。並行箇所であるマタイ22:35を見ると、「…ひとりの律法の専門家が、イエスをためそうとして」とあります。そして、彼はイエスの言われることを注意深く聞いていました。また、真理を求める正しい思いをもっていました。律法学者というのはいつも、神の命令である律法について議論していたのです。

B. イエスの応答 29-31節

29,30節は申命記からの引用です。申命記6:4,5「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」この命令は、私たち多神教の国にすむ者にも大切な教えです。この箇所からイエスが教えておられることを見てゆきましょう。

1. 神を愛する

神はすべての人に命じておられます。唯一の神に礼拝を捧げなさいと。「神は唯一」、それが事実ですから。30節に「あなたの神である主を」とあります。神を信じる者は個人的に神を愛するのです。

◎では、どのようにして愛するのでしょうか？

自分のすべてをもって、全身全霊とよくいますが、そのとおりです。それが神が望んでおられることです。次の四つはそれぞれ関連があります。

- (1) 心＝行動をコントロールしてゆくところです。意志です。
- (2) 思い＝感情の座です。
- (3) 知性＝理解すること。
- (4) 力＝前に進んでゆこうとするその力。

「尽くして」とはすべてをもって、という意味です。すべてを神にささげることが全面的な愛です。「愛せよ」とは、神が私を愛してくださったその愛で愛しなさい、というのです。

◎何故、愛するのでしょうか？

(1) この世よりもキリストを愛するものへと変えられたからです。

1ヨハネ2:15「世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。…世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。」

2テモテ3:2-5「…神よりも快樂を愛する者になり」

ヤコブ4:4「…世を愛することは神に適することである…」

このように、神以上に愛するものがあってはならないと言います。この世のものの中には答えはないからです。

(2) 自分を捨ててイエスに従う者へと変えられたからです。

マルコ8:34「…自分を捨て、自分の十字架を負い、わたしについて来なさい。」

マタイ10:37「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。」

それはキリスト者は、

- ・キリストのために生きる者とされました。

2 コリント 5 : 14, 15 「というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。」、ローマ 12 : 2 「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」、

ピリピ 1 : 20-21 「それは、私がどういうばあいにも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにしても、死ぬにしても、私の身によって、キリストのすばらしさが現わされることを求める私の切なる願いと望みにかなっているのです。私にとっては、生きることはキリスト、死ぬこともまた益です。」、これらのみことばのとおりです。

それゆえに、苦しみを喜んでいただくことができます。使徒 21 : 13 「するとパウロは、『あなたがたは、泣いたり、私の心をくじいたりして、いったい何をしているのですか。私は、主イエスの御名のためなら、エルサレムで縛られることばかりでなく、死ぬことさえも覚悟しています。』と答えた。」、パウロの証です。

そして、私たちはまず、神を愛するのです。ヨハネ 21 : 15-17 でイエスはペテロに対して「あなたはわたしを愛しますか。」と問われ、ペテロは「主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」と答えています。イエスが問われたのはアガパオーの愛ですが、ペテロの答えた愛はフィレオーの愛です。キリスト者は神からの「あなたはわたしを愛しますか」という問いを常に自らに問いかけるべきです。

◎具体的に、愛するとはどういうことでしょうか？

(1) 神の命令を守ることです。

これはみことばに従順に従っていくことです。

出エジプト 20 : 6 「わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」

ヨハネ 14 章を見ましょう。14 : 15 「もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。」、14 : 21 「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。…」、14 : 23 「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。」、また、1 ヨハネ 5 : 3 「神を愛するとは、神の命令を守ることです。」、2 ヨハネ 6 「愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、…」

(2) 熱心に神に仕えることです。

正しい動機をもってです。自分の熱心さゆえに人をさばくことがあってはなりません。それは自分の祝福を失うこととなります。申命記 10 : 12 「イスラエルよ。今、あなたの神、主が、あなたに求めておられることは何か。それは、ただ、あなたの神、主を恐れ、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、精神を尽くしてあなたの神、主に仕え、」、1 テサロニケ 1 : 3 「…私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。」、1 コリント 15 : 58 「…堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。」、ピリピ 2 : 13-16 「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子どもとなり、いのちのことばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦労したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。」

(3) 罪を憎むことです。

詩篇 97 : 10 には「主を愛する者たちよ。悪を憎め。」とあります。どのような罪があるでしょうか？

◎ ことばによる罪 : 1 ペテロ 4 : 8 「何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」、また、エペソ 5 : 3-4 「あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。また、みだらなことや、愚かな話や、下品な冗談を避けなさい。そのようなことは良くないことです。むしろ、感謝しなさい。」

◎ 心の罪 : マルコ 7 : 21-23 「内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」

◎ 行いによる罪 : 不親切であったり、いじわる、また暴力などです。

(4) 再臨を待望することです。

2 テモテ 4 : 8 「今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者

である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれでも授けてくださるのです。」

(5)喜んで犠牲的に捧げることです。

捧げ物は神への愛の証です。どのような思いで捧げているかです。2 コリント 8 : 1-8 「さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。それで私たちは、テトスがすでにこの恵みのわざをあなたがたの間で始めていたのですから、それを完了させるよう彼に勧めたのです。あなたがたは、すべてのことに、すなわち、信仰にも、ことばにも、知識にも、あらゆる熱心にも、私たちから出てあなたがたの間にある愛にも富んでいるように、この恵みのわざにも富むようになってください。こうは言っても、私は命令するものではありません。ただ、他の人々の熱心さをもって、あなたがた自身の愛の真実を確かめたいのです。」、そして、9 : 6-11 では献金についてこのように教えられています。「私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。「この人は散らして、貧しい人々に与えた。その義は永遠にとどまる。」と書いてあるとおりに。蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。」

(6) どんなどきでも神に信頼することです。

アブラハムにその模範を見ましょう。ローマ 4 : 19-22 「アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだは死んだも同然であることと、サラの胎の死んでいることとを認めても、その信仰は弱りませんでした。彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。」

(7) 正しい人間関係を保つことです。

◎教会のリーダーと正しい関係にあること。1 テサロニケ 5 : 12-13 「兄弟たちよ。あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあつてあなたがたを指導し、訓戒している人々を認めなさい。その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。お互いの間に平和を保ちなさい。」

◎兄弟姉妹を愛すること。

律法学者に対してイエスさまは、一番大切なことは「神を愛すること」だと応答されました。続いて2番目は「隣人を愛すること」です。次週、学んでゆきましょう。